

オーディオ実験室収載

古楽盤を聴く(4)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(4)—

1. 始めに

[LINN LP-12 の再構成\(35\)](#)および[ThorensTD124 の再構成\(1\)](#)で報告しましたようにこれらのアナログシステムの大幅な変更を行い、バッハ、テレマン、ヘンデル、ヴィヴァルディ、ハイドン、古典派のアナログ盤を聴き直してきました。今回も、時代をさかのぼって古楽盤を聴いてみることにしました。

2. 古典派のアナログ盤の試聴方法

試聴システムは、LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、古楽のアナログ盤をレーベル毎、録音年代毎に整理して、LINN LP-12 と ThorensTD124 のいずれか、または両方で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンティスタティックも加わり、今回も、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしています。また、今回も **Magic Mat II** の導入(2)で報告した **Magic Mat II** を使用しています。

さらに ZANDEN Model 120 の仮想アースが、Crystal E から Crystal E-G に代わっています。

今回は、次の古楽盤を聴いていきます

SEON MLG 1019

デュ・フォー リュート組曲ト短調
ジャック・ガロー リュート組曲ニ短調
エザイアス・ロイスナー リュート組曲イ短調
ヨハン・ゴットフリート・コーンランディ リュート組曲イ短調
ミヒヤエル・シェーファー (バロックリュート)

TELEFUNKEN 642155 AW

Toccata X ; Corrente / Alessandro Piccinini
Toccata VII ; Canzona II / Johannes Hieronymus Kapsberger
Ouverture de “La grotte de Versailles” de Lully / Robert de Visee
“Les sourdines d’Armide” de Lully / Robert de Visee
Air “Les matelots” de Marais / Robert de Visee
Prelude ; Ciaccona ; Rigaudon / Silvius Leopold Weiss
Sonata B-dur / Joachim Bernhard Hagen.

TOYOHIKO SATOH(バロックリュート)

3. 古楽のアナログ盤の試聴結果

SEON 盤のシェーファーの演奏は、バッハ盤を聴く(2)の結果に倣って、TELDEC、R、第4時定数 Mid で聴いていきましたが、違和感はありません。

シェーファーのバロックリュートによるリュート組曲 4 曲の演奏です。リュートはずっと以前ですが、サロンコンサーでソロの演奏を聴いており、バロックアンサンブルでもしばしば伴奏に加わります。シェーファーのバロックリュートの演奏は、4 作品とも、しっとりと細部に至るまで曲の表情を表現してくれます。

TELEFUNKEN 盤の TOYOHIKO SATOH の演奏は、バッハ盤を聴く(13)の結果に倣って、TELDEC、R、第4時定数 Mid で聴いていきましたが、違和感はありません。TOYOHIKO SATOH のバロックリュートの演奏は、シェーファーの演奏同様、いずれの作品とも、落ち着いた表情で、細部に至るまで曲のニュアンスを表現してくれます。

4. まとめ

LINN LP-12 の再構成(35)とアンチスタティックの効果(1)とレコードアンティスタティックやスピーカーアキュライザーの Crstal EpY-G と Crstal E-G や Magic Mat II の結果をトレースでき、リュート曲の表情を描き出し、レーベルのイコライザー特性が特定できました。

以上